

平成 30 年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会
第 2 回会議 議事要旨

日時 平成 30 年(2018 年)9 月 18 日(火)18 時～19 時 30 分
場所 第二庁舎 3 階大会議室
出席者 高橋会長、石川委員、山下委員、吉村委員、古川委員、甲斐委員
計 6 名
欠席者 足達委員、重澤委員
計 2 名
事務局 政策企画部企画調整課：榎本、佐野、東良、上野、上田
案件 1. 前回の振り返り
2. 答申案について
3. その他
資料 【資料 1】第 1 回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨
【資料 2】豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について(答申案)
会議録 下記のとおり

●開会

●成立要件の確認

事務局

豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会規則第 6 条第 2 項の規定により、委員の過半数の出席を必要としていますが、本日は委員総数 8 名中、6 名の委員の出席をいただいておりますので、成立要件を満たしております。

●案件、資料の説明

(事務局から説明)

会長

それでは、案件 1「前回の振り返り」を事務局から説明してください。

●案件 1. 前回の振り返り

前回の委員会でご審議いただいた内容についての振り返りをご説明いたします。

(「【資料 1】 第 1 回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会 議事要旨」をもとに説明。併せて当日配布資料の【参考 1】【参考 2】も説明。)

会長

ただいまの説明についてご質問・ご意見はございませんか。

(意見なし)

次に案件 2「答申案について」を事務局から説明してください。

●案件 2. 答申案について

事務局

前回の審議内容をふまえた答申案についてご説明します。

(「【資料 2】 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証について(答申案)」をもとに説明)

会長

ただいまの説明についてご質問・ご意見はございませんか。

答申案については、本日皆さんにご議論いただいて、10月4日に市長に提出することになっています。本日様々なご意見をいただければと思います。

委員

資料 2 の P2「1. 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」の部分で、市民意識調査の数値を「%」で書いていますが、正しくは「ポイント」です。また最後の段落では、「豊中の魅力を市民の方が市内外に発信していただける環境づくり」と書いています。市民の方が発信していただくのももちろん大切ですが、行政側も積極的に発信していただきたいです。行政が行っていることを、市民の方に伝わっていない部分がありますので、行政側も後方支援として発信に関わっていただきたいです。

事務局

行政を含める文面に修正します。

委員

以前新聞で、東京都の人口が西側から東側に移動していることが書いてありました。ここでいう西側は新宿より西のエリア、東側は東京駅より東のエリアで分けています。東西のエリアのマンションやオフィスの数を 10 年前と比べると遙かに東側が多くなっています。

その理由として、今の価値観が東京駅に電車で何分、また最寄駅から自宅まで何分というアクセスの良いところが人口増になっていることが紹介されています。私は、この委員会に最初から参加しています。この豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の目的は、人口の維持と聞いています。そうであるならば、今は環境等諸々が変わってきているので、今の問題に対して豊中市やこの委員会がどのように関わっていくのかが今回の答申には書かれていません。また答申案のP2に「豊中の魅力を市民の方が市内外に発信していただける環境づくり」と書いていますが、非常に抽象的です。豊中の魅力があるのかないのかに触れておらず、「その方向に努力しましょう」では、提案する内容が何も書かれていません。魅力あるまちにするために何をするのかをもう少し触れていただきたいです。

会長

【参考2】の資料に書いている実施状況を、委員の皆さんは第1回委員会で議論し、一定理解しています。しかし審議結果のような簡潔な書き方だと、魅力アップのために豊中市が努力したことも含めて書かれていないことになります。答申書は、全体を抽象的に書くのが一般的なのか、先ほどの委員がおっしゃったように、やってきたことはきちんと伝えるべきなのかを考える必要があります。また先ほどの東京都の人口移動の例をみても日々変わっているという意識をもった対応が必要です。今まで考えてやってきたことだけでは不足感が出ていることを我々は気づいています。気づいたことに対して、次に向けて考えていけないといけない課題もあることを答申書に示していくことがないと、初めて読んだ方には不足感を感じられるかもしれません。

委員

答申とは、我々が行ってきたことに対する報告ですか。それとも我々がやらなければならない方向性を示すものですか。

会長

私たちの答申は、前回市からいただいた「諮問」に対して返すものです。少し抽象的になってしまうのも仕方ないのかもしれませんが、ただそれをもう少し具体的に書き出していくことが問題でなければ、わかりやすくする努力も必要です。

委員

国からの交付金もあるので、お金の使い方をこの委員会で議論してもいいように思います。

会長

それは P2 の 2 の交付金関係のところになります。今の委員からのご指摘は、雇用の問題等を含めて、前回事業をされている委員の皆さまから肌感覚をおっしゃっていただきました。

委員

前回の雇用の話では、絶対数が足りているかどうかの問題もさることながら、今は昔と違って職に就けばよいという状態ではなくなっています。自分が得意なジャンルの仕事に就けるかどうかになっています。そうすると昔の職業訓練や、今でいうと IT についていける人材を育てる機関等が出てくるといいように思います。

会長

以前 3 度目の転職で、初めて仕事が楽しいと感じた人の話を聞きました。私は、仕事を楽しくするかどうかは自分自身の努力の問題と思っていました。しかし、その人の話を聞いていると職場環境を含めたいろいろな要素の中で、今の若い方々はいろいろと思い悩んでいると感じました。たしかに現在有効求人倍率は 1 を超えていますので、仕事を選択しなければ誰でも就職できる状態です。先ほどの思いを強くもちながら、毎日思い悩んでいる若い方々がいると考えたときに、今の委員のお話は量の面だけでなく質の面も含めた雇用の在り方をどのように整理していくのか、やりがい意識を含めて複雑なことだと改めて思いました。

委員

そういうことを豊中市はできるのではないのでしょうか。

会長

行政がどこまで手出しをしていくのかは議論がいろいろあります。答申書のとおり就職困難な方に対して力を入れていくのが行政の役割という考え方もあります。しかし今のような環境では、やりがいを含めたサポートをしていくことも必要です。そういう夢のあるまちでないと今後人口は増えないかもしれません。

委員

たしかに立地条件はいまさらどうしようもありません。それに代わる魅力を作る必要があります。

会長

先ほどの東京の人口のお話で、西の方が人口減少しているのに加えて、事業者数も減少

しています。さらに、高齢化の進展ともほぼ一致しているそうです。そのため、西の方は、かなり苦労しているようです。高齢化しているところが、ニュータウンと言われてしまうと、豊中でも似たような現象が出てくるかもしれません。

委員

しかし豊中市は鉄道・空港・高速道路があるなど立地状況は、すごく恵まれています。

会長

それに加えて、服部緑地もあります。他の自治体に比べて恵まれています。

審議結果の書き方については、私に任せていただければと思います。どこまで書くかは、市長が見るだけのものか、公開されて市民の方が見るものかによって書き方は変わるので、事務局と相談させていただきます。

総合戦略の計画期間は、2019年度までです。現在の交付金の後継は国の方で決まっていますか。

事務局

国は、来年度総合戦略が5年目を迎えるので、総括をしつつ、調査研究をして次期総合戦略を作成するとしています。全容は分かりませんが、引き続き地方創生は続いていくと考えています。それに伴う交付金の措置もあると思います。しかしながら、総合戦略は当初人口減少に歯止めをかける、もしくは増加させることを目標にして、豊中の魅力や働きやすさなどをアピールして基本目標を設定しました。しかし、最近総務省が取りまとめた「自治体戦略2040」では、日本の人口は完全に減少することを前提にしています。地方創生の動きと総務省の動きが少し違ってきているのかもしれませんが。このような動きを見極めて、長期的な視点で豊中市がどうあるべきかを見据えた戦略を作る必要があると考えています。また国の方から全容が示されましたら、ご報告させていただきます。

会長

審議結果の2「平成29年度地方創生関係交付金に係る事業報告について」のところでは、新たな計画づくりについて何か言及できるものがあればご意見をお願いします。

委員

審議結果と直接関係はありませんが、人口増加を目標にすることはそもそも難しいように思います。最近では関係人口という言葉を使います。人口を取り合う考えから、日本全体で幸せになれるような考えも必要ではないでしょうか。

委員

関係人口の話で言えば、たとえば1人の人が家をいくつ持ってもいいとか、ライフスタイルの話にもなるかもしれません。春はここ、夏はここというような人の生き方の部分でも多様な選択肢を提供できる場所を選んでいくように思います。まちが良くなっていくのは結果論であり、自分自身の価値観で、自分自身がどのような人生を送るかを人間は考えます。今の世の中の価値観は本当に変わっているのに、家や仕事が1つだけという価値観は壊れていっています。このような人生を送れるところはどこかと考えたときに、豊中だけを選択することはおそらくなりません。豊中を選んでもらって、かつ他の市も選ぶことを考えると、北摂周辺の市の状況も把握する必要があります。人がどんな人生を送って、死んでいきたいのかという価値観が変わっていているという本質的なところをみて、プログラムを提供できる場所でないといふと今後選ばれません。そのための1つとして、審議結果の2「平成29年度地方創生関係交付金に係る事業報告について」があります。ここで書かれていること以外にもたくさんあるので、もっと前向きに先駆的に捉えていくと面白いと思いました。

会長

どのような人が中心になりますか。

委員

もはや知識があるリーダーが引っ張っていくのではなく、一人ひとりが得手を活かして、自分が持っていないものを他者からもらうといったシェアリングエコノミーのような考えになっていくように思います。場所や空間だけのシェアではなく、自分の特技もシェアしていき、実践感覚で学び、活動していきながら何か事業を生み出すようなことも考えられます。子育て世代の女性が小商いをしたいということで、インターネットを使って仕事の傍ら一人で商売ができるような人が集まり、そのような人をサポートできるようになると市の特徴になると思います。一人ひとりが主体的に生きるというふうになると、コミュニティとしてのつながりもできてくると思います。そういうことを豊中市ではできるように私は思います。

会長

それは経済的なGDPで考えると中核にはなりそうにないですね。

委員

小さい経済になると思います。しかし、小さい経済になっていくことが悪いことかはわかりません。

会長

従来コミュニティビジネスと言われていたものが変化し、展開されるような印象を受けました。

委員

今回の答申案は、昨年度より議論が反映されているように思います。しかし先ほどの委員がおっしゃったように審議結果1番の1行目の「目標達成に向け概ね順調に進んでいる」に対する、なぜ進んでいるのかの理由づけの部分がわかりにくいです。今年さまざまな災害がありました。結果として豊中に住んでいて大阪府内の中では被害が少なかったと思います。これは豊中の地の利があり、これが市民の間で噂として広まり、人口の移動につながると思います。

会長

順調だからこそ、その理由を意見として加えてはどうかというご指摘でした。

委員

時代の変化が非常に早く、今後どうなるかわからないと委員の皆さまはおっしゃっていました。答申のまとめ方について、この時代の変化を今後もモニタリングしながら、目標数値を注視していくことを書いてはどうでしょうか。具体的には入れにくいかもしれませんが、災害を例にみても今回のような甚大な被害は10年前では考えられなかったことです。このような予測不可能なことが他に起きた時に、目標数値を軌道修正することを考えておかなければなりません。例えば、人口を増やすことを目標にしていたが、それが難しくなった場合に軌道修正できるような柔軟な目標を考えておくことが重要です。

会長

目標に凝り固まるのではなく、周辺の変化・環境に合わせて、伸びるときは伸ばし、そうでないときは停滞しないようにしていくことが必要です。このようなフレキシビリティが行政にも求められる時代になってきました。

委員

ただもう少し人口減少について頑張っていただきたいです。

会長

全世界でみた場合人口は増え続けています。その中で人口が減り続けていることで国はどのような姿になるのか、他の地域と比べてどのような変化があるのかを考えないといけ

ないかもしれません。

このようなたくさんの意見の中で、私はやってみないとわからないことはやってみて、修正することをよしと考えています。本日、委員の皆さまからいただいた意見を踏まえ、最後まとめることにつきましては、会長に一任していただければと思います。

最後に、案件3「その他」について事務局から説明してください。

●案件6. その他

事務局

連絡事項が1点ございます。

(連絡事項の伝達)

当委員会は本日が最後になりますので、政策企画部長からご挨拶させていただきます。

政策企画部長

(挨拶)

会長

それでは、これで豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会を閉会します。

ありがとうございました。

●閉会